

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ2階
TEL (03) 5275-0620 FAX (03) 5275-0871

URL <http://www.af-info.or.jp>

E-MAIL post@af-info.or.jp

平成20年度 研究助成金贈呈式

6月5日午後、経団連会館11階の国際会議場において、関係者列席のもとに研究助成金贈呈式を開催しました。冒頭、腰塚武志選考委員長と宮島喬選考委員長から選考の経過や審査基準についての説明があり、続いて瀬谷理事長が助成金受領者の方々へお祝いの言葉を述べて、贈呈状を手渡しました。

引き続き、経済産業省・甘利 明大臣のご祝辞を経済産業省・瀬戸比呂志大臣官房審議官から、また文部科学省研究振興局・徳永 保局長のご祝辞を研究振興局学術研究助

成課・袖山禎之企画室長からいただきました。

最後に、助成金の受領者を代表して東北大学・川崎雅司教授からの挨拶で式典を締めくくり、会場を移して懇親パーティーが行われました。

本年度、国内で新規に採択された助成研究は77件、これに継続分40件を合わせた国内助成総額は2億2,100万円です。

なお、本年度の助成研究は、当財団のホームページ(平成20年度 採択一覧)に掲載されていますので、ご参照ください。



2008 旭硝子財団 助成研究発表会

7月15日、市ヶ谷駅前にあるホテルグランドヒル市ヶ谷において、本年3月に研究期間が終了した全分野の国内助成研究78件の成果発表会を行いました。

当日は朝から夕方までの長時間にわたり、発表者をはじめ関係分野の研究者や当財団の選考委員、他財団からのご来賓など、多くの関係者にご出席頂きました。

冒頭、瀬谷理事長の挨拶に引続き、腰塚武志選考委員長(筑波大学副学長)から発表会開催の趣旨説明があり、続いてそれぞれの分野ごとに発表が行われました。

発表は、まず最初に講演会場で発表者が順に3分間スピーチを行い、終了後、ポスター会場に全員が移動して、各ポスターの前でディスカッションを行うという形式で行いました。

異分野の研究者が大勢集まる機会でしたので、専門外の方々にもわかり易いスピーチをお願いしたところ、多くの先生方が説明を大変工夫して下さいました。

また、ポスターも見易いものが多く、専門分野の異なる研究者同士が出会い、活発な意見交換を行う、非常に有意義な場となりました。

発表終了後には同じ会場で懇親会が開かれ、発表者や選考委員、ご来賓の方々の交歓が行われました。

今回の発表会では、遠方から宿泊をして参加して下さいました発表者が30名以上いらっしゃいました。ご出席者くださったすべての方々、運営にご協力くださった方々に、改めてこの場で感謝申し上げます。



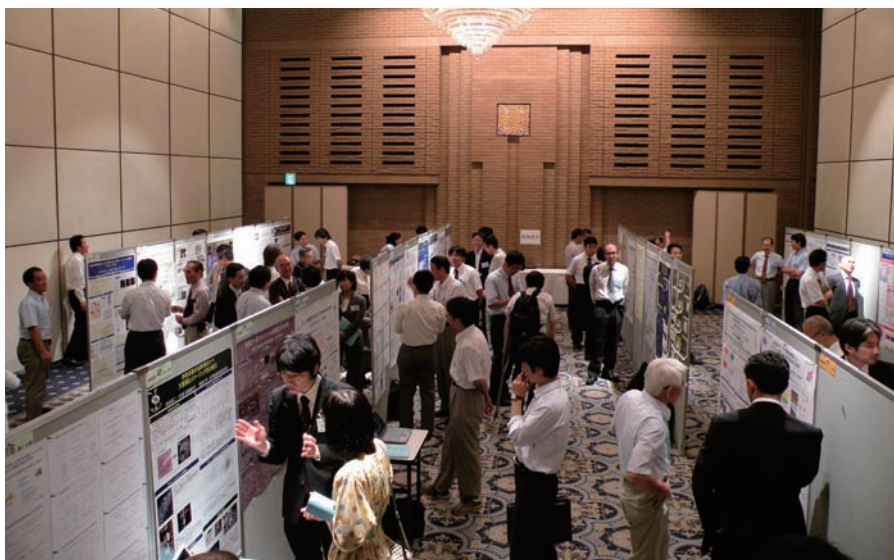
腰塚選考委員長



3分間スピーチ発表会場



瀬谷理事長



ポスター発表会場



懇親会場

海外研究助成金贈呈式 ならびに成果発表会

7月1日にタイのチュラロンコン大学において、次いで3日にインドネシアのバンドン工科大学において、研究助成金贈呈式ならびに助成研究の成果発表会を開催しました。

タイ・チュラロンコン大学

7月1日の9時から12時半まで、チュラロンコン大学本部のある Jamjuree 4 Building の会議場にて、助成金贈呈式と成果発表会を開催しました。瀬谷理事長からの挨拶、Kua 副学長による開催の辞に続いて、今年度の助成対象者16名に瀬谷理事長から贈呈状の授与が行われました。その後、医科学・科学技術・材料科学のセッションに会場を分けて、合計11件の研究成果に関するセミナーが開催されました。



贈呈状を授与する瀬谷理事長



助成対象者とチュラロンコン大学関係者、旭硝子財団関係者

インドネシア・バンドン工科大学



贈呈状を授与する内田専務理事

7月3日、バンドン工科大学 (ITB) の講堂において、助成金贈呈式と成果発表会を開催しました。ITB 研究渉外担当副学長のエミー教授、内田専務理事の挨拶に続いて、助成対象者10名に内田専務理事から贈呈状が授与されました。研究成果発表は、昨年度に採択された研究助成10件について行われました。光学材料、磁性体や生分解性樹脂の合成、自動車組立工場における筋障害問題、通信容量向上技術などの多彩な発表が行われました。



冒頭の挨拶をするエミー副学長

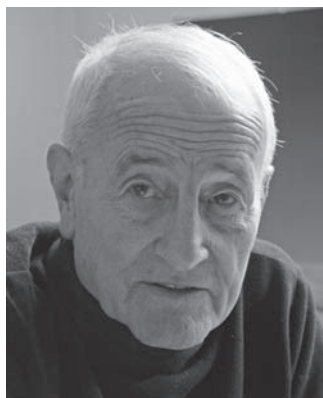
第17回ブループラネット賞受賞者

6月19日(木)、東京、経団連会館において瀬谷理事長、吉川弘之選考委員長、内田専務理事が、第17回地球環境国際賞「ブループラネット賞」の受賞者を発表しました。本年度の受賞者はフランス国立科学研究センター名誉主任研究員でフランス科学アカデミー会員のクロード・ロリウス博士と、サンパウロ大学電気工学・エネルギー研究所教授

でサンパウロ大学元学長のジョゼ・ゴールデンベルク教授のお二人です。

受賞者の選考は昨年6月に始まり、世界中のノミネーターから受賞候補者の推薦を頂き、選考委員会、顕彰委員会の審議を経て、本年4月の理事会・評議員会で受賞者が決定されました。

クロード・ロリウス博士



フランス国立科学研究センター
名誉主任研究員
フランス科学アカデミー
会員

【受賞理由】

1950年代半ばより南極の氷河(氷)の研究を始め、合計22回の南極を主とする極地探査を行いました。国際的専門家からなる様々なチームと一緒にそれらの探査を通じて氷床コアを掘削し、それを詳細に分析し、過去40万年前の地球の気候変動を明らかにしました。氷床コアの総合的な研究から過去の気温と大気の組成に関する情報が得られました。その成果の中で、特に、地球上で最も寒いポストーク基地で掘削した氷床コアの分析から氷期、間氷期間の気候変動と大気中の二酸化炭素・メタンとの相関関係等を見出したことは画期的でした。これらの結果から、博士は、現在の大气中二酸化炭素濃度が過去にない高いレベルにあり、この高濃度が人間活動と密接な関係がある可能性を示唆し、地球温暖化について警鐘を鳴らしました。

ジョゼ・ゴールデンベルク教授



サンパウロ大学電気工学・
エネルギー研究所
教授
サンパウロ大学元学長

【受賞理由】

1960年代末よりエネルギー問題全般の研究を始め、1973年の石油危機直後にはバイオエタノール計画の採択に主要な役割を果たすなど、ブラジルのエネルギー政策の策定および推進に大きく貢献しました。1980年代には世界の持続可能な発展に貢献するエネルギー戦略を立案し、途上国が発展する上での「技術の馬跳び(“technological leapfrogging”)」の概念を先駆的に打ち出し、途上国が革新的な技術を導入・発展する戦略を掲げ、持続可能な開発における再生可能エネルギーの推進に多大な貢献をしました。1992年にはブラジルの環境大臣としてリオ地球サミットの準備をリードし、その後、エネルギー、地球温暖化、倫理、政策、森林破壊その他環境問題において、ブラジル国内のみならず、国際的にも国連を含む機関・組織で強いリーダーシップを発揮し、特にエネルギーの保全・利用の効率化の改善に関わる数多くの政策の施行に貢献しました。

第17回ブループラネット賞「表彰式典」ならびに「受賞者記念講演会」

第17回受賞者をお招きして、『表彰式典』を11月12日(水)に東京会館において、また『受賞者記念講演会』を、翌13日(木)に国際連合大学ウ・タント国際会議場で開催いたします。